

れいけん
じぞう
もろだいちょう
霊験あらたかなお地蔵さん（本大町）

さいたがわ えとうぼし かりゆうやく
財田川にかかる江藤橋から下流約一〇〇メートルのところに、石の台座に高さ一メートルの石のお地蔵さんが祀られている。

じぞう いま ねんまえ えとうちいき ひとびと
このお地蔵さんは、今からおよそ一五〇年前に、江藤地域の人々によりお祀りされたものであるが、それから約三十年後、大きな洪水のため押し流されて分からなくなってしまった。江藤の人たちは、どこを捜すあてもなく、歳月は過ぎた。それから約五十年後、くしくも掘り出され再び地域の人々によりここに祀られたのである。

ちいき ひとびと ねが くだ れいけん
地域の人々の願いごとを聞いて下さる霊験あらたかなお地蔵さんに、近くの人たちは朝夕お仏飯をお供えする。その時はいつも、お地蔵さんの外に三か所小さな握り飯を置いて帰ることになっている。このお地蔵さんには二体のお使いさんがおられ、その一体は若宮さんであり、別の一体は聖天であるといわれている。

かわむ あしちく ふじん じぞう あつ しんごう すうねんまえ
川向こうの四ツ足地区のある婦人は、このお地蔵さんを厚く信仰している。数年前にのどに
さかな ほね いしや かよ
魚の骨がたつてお医者さんに通ったが、一、二、三日経つてもなかなか骨がとれなかった。それ
で、お地蔵さんをお願いに参り、お供えしてあったお仏飯をいただいた。しばらくすると食べ
たお仏飯を胃から口へゲゲゲともどしてしまった。すると、そのはずみにのどにたつていた



魚さかなの骨ほねもいつしよに出でてしまったというお話はなしもある。

このように、地域ちいきの人々ひとびとのいろいろな願ねがいごとを聞きいてくださるお地藏じぞうさんに、いつのころか、誰だれが捧ささげげたかわからないが、次つぎのようなご詠歌えいかが唱となえられている。

ありがたや われは野中のなかの 地藏尊じぞうそん

あさの ひのを まつやうれしき

(「観音寺市誌かんおんじし」より)